

## ◆団体基本情報

No.	15	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人瑞鳳殿		
所在地	〒980-0814 仙台市青葉区霊屋下23-2						
電話番号	022-262-6250		FAX番号	022-262-6251		所管 部局	文化観光局 観光課
団体ホームページ	<a href="https://www.zuihoden.com/">https://www.zuihoden.com/</a>						
代表者職氏名	理事長 藤本章			設立年月日	昭和55年1月30日		
資本金・基本財産	888,343 千円		市の出捐額(割合)	582,877 千円		(65.6%)	
設立 目的	仙台藩以来の文化的遺産である瑞鳳殿・感仙殿・善応殿の三霊屋及び経ヶ峯内伊達家墓所の保存整備並びに伊達家霊廟等に関する学術研究を行い、併せて当該施設の鑑賞の機会を提供し、文化の向上に寄与する。						
事業 概要	(1) 瑞鳳殿・感仙殿・善応殿の三霊屋の管理運営及び経ヶ峯内伊達家墓所の保存・整備 (2) 瑞鳳殿資料館の管理・運営 (3) 伊達家宝物等に関する展覧会、講習会、講演会等の主催・公演 (4) 瑞鳳殿・感仙殿・善応殿の三霊屋及び経ヶ峯内霊廟並びに伊達家墓所に関する調査研究						
評価対象決算期	令和4年4月1日～令和5年3月31日						

## ◆人員等の状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①常勤役員数	1 人	1 人	1 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
②常勤役員平均年齢	61.0 歳	62.0 歳	63.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	4,650 千円	4,617 千円	4,636 千円
④職員数	8 人	8 人	8 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
⑤職員平均年齢	52.0 歳	50.1 歳	51.1 歳
⑥職員平均年間給与	4,759 千円	4,325 千円	4,403 千円

## ◆主要財務データ

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①当期経常増減額	△ 31,118 千円	△ 22,858 千円	36,795 千円
②当期経常外増減額	0 千円	△ 8 千円	53,945 千円
③当期一般正味財産増減額	△ 31,118 千円	△ 22,938 千円	89,916 千円
④一般正味財産期末残高	365,695 千円	342,757 千円	432,673 千円
⑤指定正味財産期末残高	782,556 千円	782,556 千円	725,229 千円
⑥正味財産期末残高	1,148,251 千円	1,125,313 千円	1,157,902 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

## ◆市の財政的関与

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①市からの補助金	0 千円	0 千円	0 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	0 千円	0 千円	0 千円
③市に対する収入依存度	0.00 %	0.00 %	0.00 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和4年度事業費
瑞鳳殿等の管理運営と鑑賞機会の提供	瑞鳳殿の管理運営と鑑賞機会の提供並びに伊達家霊廟等の調査研究	136,329 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	当財団の公益的使命は、伊達家霊廟の調査研究や瑞鳳殿施設の公開による文化の向上であるが、その一方で、本市の主要観光施設として、国内外から多くの観光客を集めており、本市の観光施策における重要な一翼を担っている。また七夕まつり期間中における仙台市の各種事業との連携や、外国人観光客受け入れにおける連携など、本市の観光施策の推進に積極的に対応している。	伊達の歴史文化・調査公開を通じた文化の向上に取り組むと同時に、アフターコロナにおける交流人口拡大に向け、観光客の誘客事業について本市や関係者との連携を密にしながら、柔軟かつ適切な運営を行っていただきたい。
2. 業務・組織管理	職員は当財団の設置目的や運営方針をよく理解し、協調して組織運営に努めている。当法人が管理運営する施設は、ほぼ無休で公開しているが、従事する職員が交代勤務のため、組織内の情報の共有化が課題であった。このため全員出勤日を増やし、案件の進捗状況などの共有すべき情報の徹底を図ることにより、組織内の連携も強化されている。	運営基本方針を策定し、組織の基本方針の可視化を図っている。業務についても不断の見直しを行っており、今後とも、効率的な事業運営を保持しながら、環境の変化に柔軟に対応できる組織の構築に取り組んでいただきたい。
3. 財務状況	当財団の財務状況は、集客数に左右される要素が大きいが、コロナウィルス感染症の影響が減少したことにより、観覧者数は令和3年度の10万7千人から、令和4年度は、21万9千人と倍増となった。また令和4年度の修繕費は、瑞鳳殿本殿と政宗公御木像の修復額により3,821万円だったが、国の補助金の活用のほかクラウドファンディングにより全国の方々からご支援を賜った。このことにより当期経常増減額は、3,679万円の黒字となった。なお、今後も大規模修繕に対応しなければならない状況にある。	クラウドファンディングにより大規模修繕に要する財源を確保する等、新たな取り組みを行っている。今後も事業の効率化等により、効率的な法人運営を目指すとともに、メンテナンス費用も踏まえたより中長期的な視点に立ち、安定的な法人運営を図っていただきたい。
4. 今後の方向性及び課題	当財団の収入源は観覧料収入であり、安定した経営基盤に向け、更なる集客力アップにはソフト面の充実や、瑞鳳殿一番の魅力であるハード面の維持管理や修繕するための中長期的な資金確保が必要である。しかしながら、感染症や突然の災害による観覧者数の減少への対応に苦慮してきたところである。安定的な資金確保に向けては、アフターコロナにおける社会情勢の変化に応じて更なる国内観光需要の取り込みや、県民、市民への需要喚起を図るとともに、インバウンドの復活にも対応できる事業計画を策定する必要がある。	アフターコロナを見据えた都市間競争が激化する中、本市の文化観光をリードする青葉山エリアに位置し、伊達の歴史文化を国内外に発信するという瑞鳳殿の役割は、益々重要になっている。引き続き本市と連携しながら、交流人口の一層の拡大に向け、取り組みを進めていただきたい。